

映画で学ぶ アサーティブコミュニケーション / 第7回

『リンカーン』授業ガイド

相手を説得する——「相手を理解してから、動かす。」

教員用・指導資料（対象：高校生以上／中学生は背景解説を補えば可）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	相手を説得する（言い負かすのではなく、相手を理解し「動きたくなる」状態をつくる）
教材映画	『リンカーン』（原題 Lincoln／2012年・アメリカ／監督：スティーブン・スピルバーグ）
対象	高校生以上を主対象（映倫G。ただし政治・歴史の内容が高度なため）。中学生は背景解説を補えば可
時間	標準90分（45分×2も可）。上映150分と長いため、クリップ活用や事前視聴を推奨
中心概念	相手理解が説得の土台／理（論理）と情（物語）／相手に合わせた語り分け／目的と手段
ねらい	説得を「勝ち負け」ではなく「相手と共により良い結論へ進む営み」と捉え、相手理解に基づく伝え方を学ぶ
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／筆記用具

2 内容への配慮

i 長尺・高度な内容への対応

本作は上映150分で、南北戦争・奴隷制・議会手続きなど**前提知識を要する内容**です。無準備の全編視聴は負担が大きいため、次を推奨します。

- **クリップ型（推奨）**：リンカーンが議員を説得する場面、たとえ話を語る場面、採決の場面などを選ぶ。
- **事前学習**：南北戦争・奴隷制・憲法修正第13条の基礎を先に押さえてから鑑賞。
- **全編は宿題視聴＋授業はワーク中心**にする構成も有効。

⚠ 「目的と手段」の論点

映画には、票を得るための**現実的な取引（官職の提供など）**が描かれます。「正しい目的のためなら、どんな手段も許されるか」という倫理的論点として、批判的に扱ってください。奴隷制という重いテーマも、歴史的文脈を補って提示します。米国はPG-13、日本は映倫G。使用版のレーティングをご確認ください。授業上映には権利処理が必要な場合があります。本教材の文章はオリジナルで、写真は不使用です。

3 「説得」の基礎（予備知識）

説得は「聴く」から始まる

説得の第一歩は、相手を言い負かすことではなく、**相手が何を大切にし、何を恐れているかを理解すること**です（第2回「聴く」の応用）。相手の価値観に橋をかけて初めて、言葉は届きます。

💡 古典的な説得の3要素

古代から、説得には「エトス（信頼・人柄）」「ロゴス（論理）」「パトス（感情）」が必要とされます。リンカーンは、誠実さ（エトス）を土台に、大義（ロゴス）とたとえ話（パトス）を使い分けました。

相手に合わせて語り分ける

同じ結論でも、**相手ごとに切り口を変える**のが説得の要です。理想に動く人には大義を、実利を重んじる人には利点を、迷う人には安心材料を——リンカーンの一人ひとりへの働きかけは、その好例です。

相手を説得する4つのコツ（板書用）

① 相手の立場・利害を知る

説得の前に、まず理解する。

② 相手が得るものを示す

「あなたにとっての意味」を語る。

③ 理由+物語

論理にたとえ話をそえる。

④ 誠実に、粘り強く

信頼を土台にあきらめない。

🎯 この授業の到達目標

説得を相手理解に基づく営みと捉え、「理と情の使い分け」「相手に合わせた語り分け」を具体例で説明できる。

4 90分授業の流れ（時間割）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「誰かを説得できた／できなかった経験は？」何が違いを生んだかを引き出す。
10-22分	背景の確認	南北戦争・奴隷制・憲法修正第13条の基礎を押さえる（事前学習があれば復習）。
22-33分	説得の3要素・4コツ	エトス/ロゴス/パトスと4つのコツを板書。「相手に合わせる」を強調。
33-58分	映画（クリップ）	議員を説得する場面・たとえ話・採決。「どのコツ／どの要素を使った？」と問う。
58-72分	ワーク記入	身近な「説得したいこと」に、相手理解と4コツを当てはめる。
72-83分	目的と手段の議論	取引の場面を取り上げ、「正しい目的×使ってよい手段」を批判的に話し合う。
83-90分	まとめ	板書「相手を理解してから、動かす。」まとめ言葉で締める。

まとめ

説得は、正しさで相手を屈服させることではありません。相手を理解し、その人にとっての意味を語り、信頼を土台に粘り強く——それは「勝つ」ためでなく、相手と共により良い結論へ進むためのものです。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Lincoln ／ リンカーン
製作年・国	2012年・アメリカ。上映150分。日本公開：2013年4月19日。映倫：G（米国はPG-13）
監督	スティーブン・スピルバーグ
歴史的背景	1865年、南北戦争末期。奴隷制を廃止する憲法修正第13条を、下院で可決させるまでの政治的攻防

主なキャストと役柄

- **ダニエル・デイ＝ルイス（エイブラハム・リンカーン役）**：この演技でアカデミー主演男優賞を受賞。
- **サリー・フィールド（メアリー・トッド・リンカーン＝妻 役）**。
- **トミー・リー・ジョーンズ（タデウス・スティーブンス＝急進派議員 役）**：奴隷制廃止を強く求める。理想と現実の間での発言が見どころ。
- **ジョセフ・ゴードン＝レビット（ロバート・リンカーン＝長男 役）**。

リンカーンの語り口

難しい話に短い「たとえ話・小話」を交え、緊張をほぐして本質を伝えたことで知られます。これも説得の技術として扱えます。※映画は脚色を含むため「実話に基づく物語」として扱うのが適切。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia、シネマトゥデイ等）で確認しています。細部・脚色は諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. リンカーンは、なぜ相手ごとに言い方を変えたのだろうか？

→ 人によって大切にするもの・不安が違うから。相手理解が説得の土台であることに気づかせる。

Q. 「理（論理）」と「情（物語・たとえ）」は、どう使い分けられていた？

→ ロゴスとパトスの役割。両方あって初めて人は動く、という理解へ。

Q. 目的が正しければ、どんな手段でもよい？（取引の場面から）

→ 目的と手段の緊張。正解を出すより、多面的に考えることが目的。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- ・ 説得の場面を、理／情や4つのコツと結びつけて分析できているか。
- ・ 自分の「説得したいこと」に、相手の立場・価値を組み込めているか。
- ・ 「目的と手段」について、一面的でなく複数の見方を持っているか。

7 シリーズ全体像

回	映画	学べる力	目安
1	コーダ あいのうた	自分の気持ちを伝える	12歳以上～
2	マイ・インターン	相手の話を聴く	12歳以上～
3	セトウツミ	会話のキャッチボール	12歳以上～
4	ブレイクファスト・クラブ	相手を決めつけない	高校生～
5	タイタンズを忘れない	対立する相手と話す	12歳以上～
6	42 世界を変えた男	不公平でも自分を保つ	12歳以上～
7	リンカーン	相手を説得する	高校生～
8	アイ・フィール・プリティ！	自分を肯定する	中学生～

8 参考資料（主な出典）

リンカーン 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「リンカーン(映画)」 [https://ja.wikipedia.org/wiki/リンカーン_\(映画\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/リンカーン_(映画))

リンカーン 作品情報（シネマトゥデイ） <https://www.cinematoday.jp/movie/T0007445>

作品：映画『リンカーン』（2012年、監督スティーブン・スピルバーグ）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。